



発行日：平成 31 年 1 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 3 回市民部会を開催しました！

今回の WG では、第 2 回 WG のワークショップで挙げられた意見をカテゴライズし、矢作川流域の情報を整理しました。また、今後の市民部会の方向性を明確にするために、標語を作成しました。活動の最後には、市民部会（市民会議）の 9 年間のまとめを行い、今後の体制について意見交換を行いました。

日時：平成 30 年 12 月 14 日（金）14:00～17:00
会議場所：豊田市崇化館交流館 3 階 第 1 研修室
参加者：11 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. これまでの市民部会の進捗と第 3 回市民部会の目的



【これまでの市民部会の進捗】

第 1 回市民部会では、「ごみ・流木」「土砂」「木づかい」の 3 つのテーマについてこれまでの活動を振り返り、流域の市民目線で意見交換を行いました。その中で、市民が矢作川流域の情報に触れる機会が少ないことが課題として挙がりました。そのため、第 2 回市民部会では、流域の優れた点や問題点などの様々な意見を地図上に列記し、空間的に情報を把握できる流域マップを作成しました。

【第 3 回市民部会の目的】

第 3 回市民部会では、矢作川流域に住む市民への情報発信に向けて、第 2 回市民部会で作成した流域マップ上の意見の整理を目的としました。そこで時間軸を基盤として、矢作川流域がこれまで歩んできた過去と現在にかけての良い点と悪い点、将来を見据えた意見についてカテゴライズを行いました。

また、9 年間の市民部会（市民会議）のまとめを行うとともに、今後の方向性を明確にするために標語の作成に取り組みました。

2. ワークショップ ～意見のカテゴライズ～



過去、現在、将来という一連の時間軸の中で、良い点と悪い点という大きく 2 つの枠に意見をカテゴライズしました。結果としては、過去の悪い点は最も少なく、過去の良い点、現在の良い点、現在の悪い点という順番で意見の数が多くなりました。将来については、今後評価していかなくてはならない意見が並びました。これにより、現在の悪い点が明らかになり、今後解決していかなくてはならない課題が多いこととその内容について再認識しました。一方で、過去の良い点を求めるのではなく、過去から学び、将来に向けた新たな矢作川の再構築が必要であることを共有しました。

3. ワークショップ ～市民部会の標語の作成～



山・川・海の恵みにつながる矢作川をつくる ～今新たに！「流域はひとつ」生命共同体～

矢作川の恵みにより人々の生活は成り立ち、流域圏内の産業が発展してきました。市民部会は矢作川の大切さを再認識し、より良い矢作川流域圏の再構築を目指すために、標語を作成しました。



4. 9 年間のまとめ



市民部会は、行政の方や学識経験者が参加していない市民を中心とした部会です。そのため、データや学説に基づいた議論ではなく、流域圏に住む市民目線でののびのびとした意見交換を行うことができました。また、異なる地域部会の参加者が集まっているため、これまで知ることのなかった各地域部会の情報共有の場にもなっています。これにより、流域を広い視点で捉えることのできる部会となりました。

今後の市民部会としては、各地域部会の話題や課題を拾い出し、課題解決に向けて、合同部会の開催の提言や各地域部会への情報発信を行う場としていきたいという意見でまとめられました。

◆ワークショップ ～意見のカテゴリライズ～ の結果

「過去」は、ネコギギなどの生物が多く生息していたこと、湧水が多く場所を確認されていたことが良い点として挙げられましたが、生物の生息データの蓄積がないことが悪い点とされました。それに対して「現在」は、良い点として土砂災害の減少が挙げられており、これまでの災害対策の有効性について再確認できました。一方で、水質の悪化や水量の減少が悪い点として注目を集めていました。また、農林業の衰退も悪い点として挙げられており、後継者不足への対策が求められました。「将来」は、他の河川の流域住民との交流を深めていきたいという希望や、矢作ダム必要性について再評価したいなどの将来的な活動を見据えた意見が並びました。



	過去	現在	将来
良い点	ネコギギ、カワセミ、シャコ、アサリが多く生息 湧水が多かった	土砂災害の減少 環境教育林の整備 郷土料理（アユ・自然薯）が食べられる 水源の清流で水と親しむ場が誕生	上下流連携の山づくり 地域資材の利用拡大 他の河川流域住民との交流 用水路・支川の利用方法の検討
	ヘドロの蓄積 生物の生息データの記録が乏しい	水質の悪化 外来生物の増加 山の手入れ不足 農林業の衰退・後継者不足	水量の減少 獣害の増加 河原の樹林化・荒廃 矢作ダムを撤去したときのメリット・デメリット
悪い点			

◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●ワークショップ ～意見のカテゴリライズ・標語の作成～

- 過去の良いところをそのまま今に生かせるわけではない。昔は不便な面もあり、昔の生活に戻っても何の意味もない。そのため、知恵を絞って過去の良いところを生かして、今にどうつなげるかを考えなくてはならない。（高橋）
 - そして、今の様々な活動が全て悪い影響を与えているかというところではない。（光岡）
 - 「時・水・人・恵み」が今の時代にどのようにつながっているのかを再認識し、新時代に向けた再構築を目指すべきである。（近藤）
- かつては湧水がいろんなところで出ていて、アユを育て、米を育て、魚介類を育てたのだと思う。（井上）
 - 川自体が良いと、流域の人たちは恵みを得ることができた。川に生かさせていただいたとすごく感じる。（沖）
- 豊田や岡崎は矢作川のおかげで産業が発展した。一方で、大きなダムがなかったら、豊田に大きな町をつくることができなかった。いろんな視点から矢作川を考える必要がある。（高橋）
- 最近、矢作川流域圏懇談会の刺激が旧額田町に生かされるようになり、新しい会がいっぱいでき始めている。（沖）

●市民部会の9年間のまとめ・今後の体制について

- 市民部会が各地域部会に刺激を与えることができたか考えると、入り口に立ったくらいだと思う。今後は地域部会（山・川・海）に横串を刺せる存在となれたらいいと思う。（近藤）
- これまでは川部会のみに参加していたが、市民部会に参加することで広い場所からものを見ることができた。（加藤）
- 今年度の市民部会で矢作川の望ましい姿をイメージ化することができなかった。（光岡）
- 懇談会のメンバーが少なくなってきた。この理由も考えていかなければならない。（菅原）
- 市民部会でも泊りの研修などがあると面白いと思う。（加藤）
 - 市民部会の提案で合同部会やエクスカージョンを開催できたらいいと思う。（近藤）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、調査係長 服部

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 指導員 宇野

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijnet.or.jp) までお送りください。

